

## 「特定外来生物ナガエツルノゲイトウ調査報告」

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 会長 八鍬雅子

年々拡大を続けるナガエツルノゲイトウ（以下ナガエ）は、手賀沼の上沼（手賀大橋の西側）での繁茂が著しく、強風にあおられ波にさらわれ群落の一部が離岸し、島状になって流され、漂着先で弊害が生じている。中でも手賀沼公園付近では、ボートの出航を阻害するケースが増加している。美しい手賀沼を愛する市民の連合会（以下美手連）は、行政や関係機関と協働で漂着したナガエの除去作業を行い、また効果的な駆除方法を探るため、昨年に引き続き重機による駆除作業を実施した。

### 【2017年5月18日 手賀沼公園周辺漂着ナガエ除去作業】

参加：我孫子市手賀沼課・公園緑地課、千葉県柏土木事務所、千葉県水質保全課、柏市環境政策課、美手連、津川興業（計22名）

船外機などを使ってナガエを寄せ集め、重機で引き上げた。ナガエの切れ端などを丁寧に網で掬いとり、流出を防いだ。大半のナガエが人為的に切断されていた。一部切断されたマコモも混入。ナガエは浮いている状態で作業しやすく、1時間余りで完了。（回収量2260kg）



切断されたナガエとマコモ



### 【2017年11月16日 手賀沼（我孫子新田地先）ナガエ駆除作業】

参加：美手連（主催）、千葉県柏土木事務所、我孫子建設業会、クリーン手賀沼推進協議会（我孫子市手賀沼課事務局）、千葉県水質保全課、滋賀県自然環境保全課（計66名）

約400㎡のナガエ群落をエンピや鎌を使って岸から島状に切り離し、作業用のデッキ下まで移動させ、重機で引き上げた。トラックへ積み込み、乾燥させるため仮置き場へピストン輸送。駆除量約50t（水分含む）。その後数回に分けて乾燥したものを焼却処理した。



網で切れ端キャッチ！



オオバナミズキンバイも確認⇒

### 【実害発生 手賀排水機にナガエが大量漂着】※手賀沼土地改良区へ聞き取り

2017年台風21号、22号によるポンプ排水後の10月24日・25日・27日・31日の4日間に、大量に漂着したナガエをポンプの稼働に障害が起きないように除去した。ナガエの仮置き場の面積は103.5㎡、除去量は7460kg（乾燥後）であった。今後、更に大量のナガエが漂着することも予想される。ポンプが機能しなくなり、洪水等の被害が発生してからでは遅い。ナガエの実態把握と防除対策が急務となった。



## 「特定外来生物オオバナミズキンバイ調査報告」

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 会長 八鍬雅子

2017年6月10日に美しい手賀沼を愛する市民の連合会（以下美手連）が、手賀沼公園内遮光シート設置場所周辺で経過観察時にオオバナミズキンバイ（以下オオバナ）を発見した。ナガエツルノゲイトウ（以下ナガエ）と同じく水陸両生ではあるが、オオバナはきわめて成長速度が速く、本格的に調査すると、すでにナガエ群落の先端部分が随所でオオバナに置き換わり、初期対応の段階からはるかに進行していた。美手連では、初確認以降、行政や関係機関に働きかけ、駆除、調査を実施した。

### 【2017年8月30日 ナガエとオオバナ 調査・駆除作業】

参加：我孫子市手賀沼課、千葉県水質保全課、美手連（計18名）

オオバナを初確認した手賀沼公園内の駆除作業を開始すると、ナガエ繁茂域の大半に、オオバナが混在しており、オオバナだけの群落もあった。駆除量 1160 kg



オオバナの黄色い花が咲いていた

繁茂域を測量



引き抜き作業



作業終盤、切れ端も残さず駆除

### 【2017年9月6日 オオバナ 船上調査】

参加：我孫子市手賀沼課、美手連（計9名） 調査区域：手賀沼 上沼（西側）

9月4日に滋賀県自然環境保全課 中井克樹さんが来訪。オオバナ駆除後の手賀沼公園周辺を調査した際、オオバナの若芽を複数発見。拡大の恐れを指摘される。それを受けて船上からオオバナの調査を実施。至る



手賀沼公園東側



北千葉第二機場前

所でナガエの群落の先端から中ほどへオオバナが生育していた。北千葉第二機場周辺では繁茂していた。

### 【2017年11月15日 オオバナ・ナガエ 船上調査】

参加：中井克樹氏、林紀男氏、東邦大学生、千葉県生物多様性センター、美手連（計10名）

午後開催の緊急勉強会前に、講師と現場調査を行った。植生帯と岸との水路を閉塞。枯れ始めたナガエと青々としたオオバナの境界が際立っていた。わずか2ヵ月でオオバナの生育範囲がさらに拡大したことを確認した。



北千葉第二機場周辺

### 【2018年2月17日 オオバナ・ナガエ 冬季確認船上調査】

参加：中井氏、林氏、自愉企画、千葉県水質保全課・生物多様性センター、我孫子市、柏市、美手連（計11名）

枯れたナガエは薄茶色、オオバナは赤茶色で、オオバナを簡単に識別することができた。第二機場前の「大陸」が大幅に縮小。ちぎれて漂流している「島」を複数確認。手賀沼公園等に漂着か。



北千葉第二機場前



ナガエを土台にオオバナが覆いかぶさって、拡大していた

オオバナは赤茶色 ナガエは薄茶色

「手賀沼魚類・貝類・プランクトン調査」

手賀沼水生生物研究会

鈴木盛智

【2017年11月11日 魚類定量調査及び種類調査、プランクトン種類調査】



	親水広場棧橋	根戸新田		大津川河口ワンド	漁協前		片山新田	岩井新田	
	9:15~9:30	10:06~10:36			12:30~13:00			14:45~15:15	
モンドリ数	3	6	6		6	6			6
モンドリ	(15分)	(30分)	(30分)		(30分)	(30分)			(30分)
		AYC	沼南園		AYC	沼南園			
	沖 岸	岸	岸						
モツゴ	134		17		94	133			83
スジエビ	5		1						6
タイバラ			稚 2						
タモロコ					3	1			5
ヌマチチブ						1			
テナガ	1				1				
ツチフキ			4		1	3			
底質		砂地		軟泥					軟泥
水深		30cm		30cm			30~80cm		30~50cm
ガサガサ		6人:30分		4人:45分			4人:45分		4人:45分
ドブガイ生体			0	0			6		3

モンドリやガサガサの調査による手賀沼の水生生物の優先種はモツゴ、スジエビでこれは大変多い。タイバラタナゴは少なくなっている。手賀沼大橋西側(上流)の二枚貝生息場所であったところでは、今回生体は発見できなかった。二枚貝は低密度の状態が続いている。



ハクレンのジャンプ



ドブガイ

\*植物プランクトン：珪藻類が主体で、緑藻類、藍藻類いずれも割合は低い。

\*動物プランクトン：原生動物は、鞭毛虫はいつもいるが、根足類(アメーバ等)がいくつか見られた。繊毛虫は多くない。ワムシはドロワムシが80%ぐらいを占め数も多い。